

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）の下、豊かな個性の伸張と人間性の尊重、陶冶に努めることにより、高い志をもち、国家・社会に貢献する気概に満ち、国際人として様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成するため、特に次の能力を育むことをめざして全人格的な教育を行う。1920年に設立され百年を越え維持されてきた校風を大切にしていく。

- 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身と強い意志をもって未来に生きる総合的な人間力
- 高い基礎学力と自学自習力を有し、自ら課題を発見し解決していく能力
- 自分を尊重し理解する能力に秀でるとともに、他者と協働する能力や自らの考えを世界に発信できるコミュニケーション能力

## 2 中期的目標 令和5年度は、GLHS校再指定4期め3年め、SSH校指定3期め4年めであり、取組みの一層の充実を図る。

## 1 高い知性と確かな学力の育成

- (1) 「授業で勝負」。質の高い授業と生徒の積極的な授業参加により高い知性と確かな学力を育成する。アクティブラーニングの視点からの授業の改善充実を進めることで生徒の学習意欲を高める。授業中心の「予習→授業→復習」という毎日の学習サイクルを確立し、基礎学力の定着と自学自習力の向上、実践力の育成を図るためにきめ細かい指導を行う。
- ア 生徒による授業評価を活用しながら、研究授業、相互の授業参観を行って授業の改善充実を努め、生徒の授業理解度及び授業満足度の向上を図る。
- イ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を充実させる。
- ウ 生徒自身ができるようになる授業を行い実践力を養う。  
※生徒による授業アンケートの項目8と9の肯定率を、3学年平均で85%以上(R2:89.4%、R3:91.1%、R4:89.7%)を維持する。
- (2) 「言葉」と「体験」をキーワードに多様な学習の機会を開設し、生徒の自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成する。
- ア グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 事業やスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業等を活用し、生徒の英語活用能力、課題発見能力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。
- イ 教科・科目の授業や探究活動においてICTを積極的に活用し、情報リテラシー（収集、選択、活用、編集、発信する能力）の向上を図る。  
※4技能習得の基礎固め及び動機づけのため、第2学年の修了までに英検2級の取得をめざす。

## 2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上

- (1) 3年間を見通した進路指導によって高い志と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・適性・個性に応じた進路選択を支援する。また、生徒の進路希望を実現するため、授業・講習等により学力向上を図る。
- ア 進路HRを中心に計画的な指導と情報提供に努め、主体的な進路実現を支援する。
- イ 探究活動やSSH事業を通じて興味関心を深く掘り下げながら進路を考える機会を増やす。
- ウ 1年次から高い目標をもたせ、京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とする指導を充実する。
- エ 授業に加えて、必要に応じて、進路指導部が中心となって各学年で計画的な講習を実施し、学力の向上を図る。  
※京・阪・神大をはじめとする国公立大学への進学者数を現役で125名以上(R2:137人、R3:157人、R4:145人、現役・一浪で200名以上(R2:207人、R3:205人、R4:185人)をめざす。

## 3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実

- (1) 文理学科としての学校行事と部活動の充実、学校内外の体験活動を通じて豊かな人間関係と自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成する。
- ア 生徒実行委員会による学校行事の運営を進める。
- イ 自主性を尊重した部活動の運営を推進するとともに、学習と部活動の両立を図る。
- ウ 文化系部活動振興の一環として、科学系部活動を統合する組織により、探究活動の深化・発展を図る。  
※生徒の部活動に対する満足度85%以上(R2:85%、R3:86%、R4:87%)を維持する。
- (2) 全教職員による生徒指導によって規範意識やマナーの向上を図り、よりレベルの高い「規律ある進学校」をめざす。
- ア 挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルールの遵守等の指導を充実する。  
※遅刻数は1,500以下(R2:1,435人、R3:1,586人、R4:1,236人)をめざす。
- (3) 体験を重視した人権教育を通じて人権感覚を育て、人権問題の解決に向けた態度の育成を図る。
- ア フィールドワークや当事者との交流の機会を充実する。
- (4) 配慮を要する生徒へのきめ細かい指導を行い、特に不登校の予防と不登校生徒へのケアに努める。
- ア 教育相談室を中心に、配慮を要する生徒の情報を迅速に収集して関係教職員が共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関との緊密な連携に努める。

## 4 健全な職場環境、安全安心な教育環境の確立

- (1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む職員集団の確立
- ア 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止。  
※教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」90%(R2:83%、R3:91%、R4:92%)、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」80%(R2:56%、R3:79%、R4:89%)
- イ 業務内容の精選、平準化、効率化。  
※時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数の減少(R2:11人、R3:14人、R4:46人)、ストレスチェック職場環境評価の改善(R2:112、R3:109、R4:95)。
- (2) 安全安心な教育環境の確立
- ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。  
※不良個所の減少。

## 【学校教育自己診断における結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月 実施分]	学校運営協議会からの意見
肯定率の経年比較と評価(数値はいずれもR5←R4←R3←R2。一昨年度より質問内容を一部変更したため比較できるもののみ比較) <b>【保護者】</b> 1. 学校の楽しさ 87←82←86%(○) 2. 授業の分かりやすさと楽しさ 74←71←67←69%(○) 3. 生徒指導への共感 87←88←82←74%(○) 4. 進路指導の適切さ 89←92←83←75%(○) 5. いじめなどへの対応 90←88←62←51%(◎) 6. 人権・規範意識の育成 91←92←74←65%(◎) 7. 情報提供の努力 93←92←87%(◎) 8. 参観や行事への参加 89←84←50%(◎) 9. 部活動指導への満足度 81←76←73←79%(◎) ※多くの項目で向上した。 <b>【生徒】</b>	<b>【第1回】</b> 6月27日(火) 15:30~17:00 ・R5年度学校経営計画については承認。 ・SSHの取組について、次年度は第Ⅲ期の最終年度になるので、しっかりと取り組んでいただきたい。  <b>【第2回】</b> 11月9日(木) 15:30~17:00 ・取組に関しては評価できるが、生徒目線で考えたときにどれだけの効果があったのか検証が必要。 ・学校から社会に出たときの隔たりをなくするような教育も必要ではないか。

府立生野高等学校

<p>1. 学校の楽しさ 88←88←82←77%(○) 2. 生活指導への肯定感 83←85←83←79%(○) 3. 進路指導への肯定感 94←93←93←84%(◎) 4. いじめ対応への肯定感 94←93←92←84%(◎) 5. 教育相談への肯定感 69←66←62←79%(○) 6. 人権・規範に関する取組みへの肯定感 90←91←86←79%(◎) 7. 学校行事の満足度 92←97←92←91%(◎)</p> <p>8. 1人1台端末の活用 82←78%(○) 9. 授業に対する満足度 77←78←75←69%(○) 9. 印象に残る授業・授業への集中度 85←86←80←76%(○) 10. バランスの取れた高校生活を送っている 74←76←75←74%(○) 11. 生活リズムがとれた生活を送っている 76←77←75←55%(○) 12. 生徒の意見が学校運営に反映されている 68←77←71←63%(△) 13. 生野高校を後輩に推薦したい 69←77←74←65%(△)</p> <p>14. 部活動に対する満足度 85←87←86←85%(○) 15. 家庭連絡 81←85←79←73%(○)</p> <p>※生徒の意見が反映された学校運営と生野高校を後輩に推薦したいで評価が低下したので検討が必要。</p> <p>【教職員】(質問9以後は昨年度より)</p> <p>1. 日常的に教職員で話し合っている 96←92←91←83%(◎) 2. 評価を次年度の計画に生かしている 89←89←79←66%(○) 3. 生徒理解、生徒支援を重視した生徒指導 87←81←82←78%(◎) 4. きめ細かい進路指導 91←92←93←83←78%(○) 5. いじめ対応 98←91←91←85%(◎) 6. 教育相談 84←87←90←95%(△) 7. 学校行事 82←91←96←93%(△) 8. 情報の生徒・保護者や地域への周知 100←92←88←93%(◎) 9. 働き方改革を推進 73←57←34%(○) 10. 府のルールや内規の理解 100←96←94%(◎) 12. 人権に配慮した学校運営 98←92←90%(◎)</p> <p>※依然として働き方改革の推進に大きな課題がある。次年度も教職員の多忙解消に向けた業務の削減と平準化をさらに進めたい。</p>	<p>・失敗してもよいということやその時の対応も含めて、社会とのつながりをもつような教育が充実されればなお良いと感じる。</p> <p>【第3回】 2月15日(木) 15:50~16:50</p> <p>・SSHや探究の取組みで進路について考えさせることを評価指標として設定されることからとても良いことだと思う。学習はできない所ができるようになるまで反復練習することが大切であり、ベーシックテストの取組みは非常に期待できる。</p> <p>・文化祭の楽しさは生徒自ら作るものであり、満足度も自分で高められるような行事にできればなお良いと思う。</p> <p>・学習の動機付けの一つとして必要性がある。英語については必要性を感じないことも大きい。社会人になれば英語を話す必要が出てくることもあるが、それが高校生には伝わりにくい。必要性の押し付けは意欲を低下させることもあるので、指導の際は留意する必要がある。また、英語を話すためには、間違っても良いといった考えも大切である。正確に話そうとすればするほどプレッシャーを感じて上手く話せないといったこともあるので、生徒にはスモールステップを上手く設定し、「間違ってもよい」という雰囲気の中で、できたら褒めることで肯定感を持たせることが大切なのではないか。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 高い知性と確かな学力の育成	<p>(1) 授業の充実改善と基礎学力の定着、自学自習力の育成</p> <p>ア 授業評価の活用、研究授業、相互授業見学による授業の改善充実。</p> <p>イ 主体的・協働的に学ぶ姿勢の育成。</p> <p>ウ 実践力の育成。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートの結果をもとに教科で対策を協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で年間最低1回の研究授業を実施する。</li> <li>全教員が年間最低2回の授業参観を行う。</li> </ul> <p>イ・生徒に印象に残る授業を展開し、授業集中力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学習時間等の実態調査を行い、家庭学習の時間等を把握する。</li> </ul> <p>ウ・主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を研究する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業評価における授業理解度(授業アンケート質問9の肯定率)</p> <p>1年90%以上 [89%] 2年90%以上 [93%] 3年90%以上 [93%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己診断(生徒用)の「印象に残る授業が展開され、集中して授業に取り組んでいる」80%以上 [86%]</li> </ul> <p>イ・授業アンケート項目8・9の肯定率を3学年平均で85%以上 [88%、91%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平日の自学自習時間、1・2年とも前期90分以上、2年後期120分以上 [1年59・83分・2年69・81分]</li> </ul> <p>ウ・自己診断(生徒用)の「現在行われている授業に満足し勉強することが楽しいと思える」1・2年80%以上 [1年77%、2年80%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業評価における授業理解度</p> <p>1年92%(○) 2年88%(△) 3年96%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「印象に残る授業が展開され、集中して授業に取り組んでいる」85%(○)</li> </ul> <p>イ・授業アンケート項目8・9の肯定率91%、92%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平日の自学自習時間(△) 前期:1年103分、2年72分 後期:1年72分、2年89分</li> </ul> <p>ウ・「現在行われている授業に満足し勉強することが楽しいと思える」1年78%、2年70%(△)</p>
	<p>(2) 自ら学び、考え、判断し、行動する力の育成</p> <p>ア GLHS事業やSSH事業の活用</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「探究」の校内発表会を実施し、校外発表会に参加する。その際、SSHの発表では、英語による発表を奨励し、海外科学研修で発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSH校外研修、海外語学研修、海外科学研修、英検対策講座等を実施する。</li> <li>オーストラリアFCACとの相互交流の準備をする。</li> <li>英検、漢検の受験を奨励する。</li> </ul>	<p>(2)</p> <p>ア・探究活動に関する事後の満足度 95% [97%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダ研修(校内留学) 100% [100%]</li> <li>SSH海外研修 [-]</li> <li>英語検定2年生2級以上取得率 50% [52.8%]</li> </ul>	<p>(2)</p> <p>ア・探究活動に関する事後の満足度 92%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダ研修(校内留学) 100%(◎)</li> <li>SSH海外研修満足度 100%(◎)</li> <li>英語検定2年生2級以上取得率 56.6%(○)</li> </ul>
2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上	<p>(1) 高い志と明確な目的意識の育成、計画的な講習による進路希望の実現</p> <p>ア 計画的な指導と情報提供による主体的な進路実現の支援</p> <p>イ 探究活動やSSH事業による興味関心の深化</p> <p>ウ 京・阪・神大等の国公立大学をめざした指導</p>	<p>(1)</p> <p>ア・分掌と学年が連携して進路HR、一日総合大学、大学見学会等を実施する。また、社会の第一線で活躍する先輩等の講演会を実施する。</p> <p>イ・生徒の興味関心に応じたテーマの設定、放課後の活動をサポートする。</p> <p>ウ・高い目標を持ち最後まで諦めない指導を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験対策を充実する(授業の改善充実と3年講習を5教科で実施)</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・大阪大学見学会の満足度 95%以上 [98%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスレポート提出 100% [-]</li> </ul> <p>イ・探究活動やSSH事業の活動を通して進路について考える機会が増えた割合 80%以上 [82%]</p> <p>ウ・共通テスト受験者90%以上維持(96%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学率(現役・一浪で) 50%以上 [74期生現浪51%、75期生現浪41%]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・大阪大学見学会満足度 96.9%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスレポート提出 100%(◎)</li> </ul> <p>イ・探究活動やSSH事業の活動を通して進路について考える機会が増えた 95%(◎)</p> <p>ウ・共通テスト受験者 91.3%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学率(現役:118名/343名=34%、一浪:現役137名+一浪41名=178名/351名=51%)(△)</li> </ul>

## 府立生野高等学校

	エ 自主学習の質と量をかさ上げする取り組みの実施	エ・自学自習力の向上をめざし自主学習の時間と内容を調査・分析、課題解決に努める。	エ・各定期考査前に1週間の調査を行い結果分析、課題を把握し改善に努める。[一]	エ・各定期考査前に1週間の調査を実施。結果を分析し次年度の対策を企画。(◎)
3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実	<p>(1) 豊かな人間関係と自主性・自律性・リーダーシップの育成</p> <p>ア 生徒実行委員会による学校行事運営</p> <p>イ 自主性を尊重した部活動の推進、学習と部活動の両立</p> <p>ウ 科学系部活動のさらなる活性化</p> <p>(2) 「規律ある進学校」の実現</p> <p>ア 規範意識・マナーの向上</p> <p>(3) 人権教育の充実</p> <p>ア 体験重視の人権教育</p> <p>(4) 配慮を要する生徒へのきめ細かな指導</p> <p>ア 情報の迅速な把握と共有化、関係機関との連携</p> <p>イ 欠席生徒への情報共有及び対策</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体育祭、文化祭等の行事を極力生徒自身に企画・運営させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー講習会を実施する。</li> <li>・他校執行部との交流、ボランティア活動など、学校外への働きかけを意欲的に行う。</li> </ul> <p>イ・顧問の指導の下、生徒自身に活動のあり方を考えさせることにより、自主性と自律性の向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活のスタンダード」を踏まえ、学習と部活動の両立を図る。</li> </ul> <p>ウ・既存の部と同好会を束ねる「科学系クラブ連合」により探究活動の深化・発展を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・全教員による挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルール遵守等の指導の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の地域活動（清掃活動等）を推進する。</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・フィールドワーク、当事者との交流機会の充実</p> <p>(4)</p> <p>ア・年3回の欠席調査や学年会議等で情報を把握、ケース会議を随時開催して情報の共有化を図り、指導方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の協力を得て、スクールカウンセラー、府立高等学校適応指導教室や専門機関と緊密に連携して指導にあたる。</li> <li>・教育相談室の整備を図る。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・各行事の満足度・達成度90%以上 [体育祭は99%、文化祭は98%]</p> <p>イ・部活動に対する満足度80%以上 [87%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断（生徒用）の「学習・行事・部活動のそれぞれにバランスよく取り組んでいる」70%以上 [76%]</li> </ul> <p>ウ・科学系部活動参加者による発表・表彰件数前年度並み [発表25件、表彰3件]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学系部活動入部者前年比5%以上増加 [1%]</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻数1500回以下 [1570回]</p> <p>(3)</p> <p>ア・3学年人権研修満足度いずれも90%以上 [1年アンガーマネジメント講習98%、1年同和問題98%、2年在日韓国朝鮮人問題99%、3年障がい者問題は未実施]</p> <p>(4)</p> <p>ア・不登校生については、教育相談委員会を中心に、保健室やスクールカウンセラーと連携し、学校全体で支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・行事満足度：体育祭92.8%、文化祭98.3% (◎)</p> <p>イ・部活動に対する満足度85% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習・行事・部活動のそれぞれにバランスよく取り組んでいる」74%以上 (○)</li> </ul> <p>ウ・校外発表へのエントリー50件、入賞3件(京都大学ポスターセッション大阪府代表に選出、学生科学賞教育委員会賞、大阪サイエンスデイ銀賞) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学系部活動入部者数45人から72人、前年比60%増加 (◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻数1661回 (△)</p> <p>(3)</p> <p>ア・1年アンガーマネジメント講習96.4%、1年同和問題98.8%、2年在日韓国朝鮮人問題99.4%、3年障がい者問題100% (◎)</p> <p>(4)</p> <p>ア・不登校生については、教育相談委員会を中心に、保健室やスクールカウンセラーと連携し、学校全体で支援した。(○)</p>
4 健全な職場環境 安全安心な教育環境の確立	<p>(1) 全員で取り組む職員集団の確立</p> <p>ア コミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止</p> <p>イ 業務内容の精選、平準化、効率化</p> <p>(2) 安全安心な教育環境の確立</p> <p>ア 施設設備の機能回復と充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・首席・主任・部長を中心としたミドルアップ・ダウンの一層活性化、分掌主導の学校運営の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が働きやすい職場環境改善に努める。</li> <li>・学校全体で経験の少ない教職員を育てる体制づくりを進める。</li> </ul> <p>イ・業務内容の精選、平準化、効率化。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全体で業務に当たる体制づくりを進める。</li> </ul> <p>(2) 安全安心な教育環境の確立</p> <p>ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」90%[92%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」80%[89%]</li> </ul> <p>イ・時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数の減少[46人]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェック職場環境評価の改善 [95]</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・不良箇所の減少</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」96% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」89% (○)</li> </ul> <p>イ・時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数28人 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェック職場環境評価90 (◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・校舎屋内階段踏面修理、記念館外部階段老朽化補修、食堂厨房内給水管漏水修理等、各種工事を多数実施 (◎)</p>